



アルトム山(火の山)よりグアム国際空港を望む



ジーゴ平和慰霊公苑 表紙: 慰霊塔



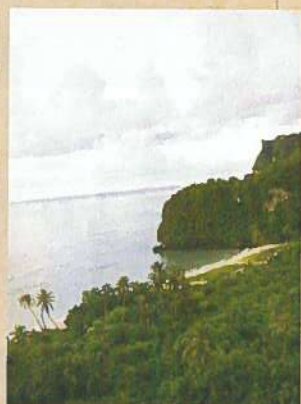
ニミツヒルよりアガット方面を望む



アガット(昭和町)慰霊碑



アガットの米軍司令部跡の
記念碑



Nikko HOTELより
ガンビーチを望む



米海軍基地前の戦争歴史博物館前(日本の海軍特殊潜航艇)

グアム島戦の概要

グアム島の歴史

- ①グアム島は1521年マゼランが上陸しその後スペインの植民地を経て、1898年アメリカ・スペイン戦争の結果、アメリカに譲渡され、米国領として統治されていました。
- ②日本は第一次世界大戦の後、ベルサイユ体制下に結ばれた国際連盟規約等により、マリアナ諸島を含む南洋諸島を「委任統治領」として認められ、領有していましたが、グアム島だけは、1898年以降アメリカ領のままであり、ワシントン軍縮条約で要塞の建設が禁じられていたため、開戦時には小規模の海軍基地のみがありました。
- ③日本軍は、1941年12月8日ハワイ真珠湾に引き続いてグアム島を爆撃、2日後に攻略軍を上陸させ占領しました。
- ④グアム島では、1941年から始まる日本国に軍事占領と、その後の2年余に渡る日本軍政がありました。
- ⑤1944年7月21日、米軍の反攻上陸開始。日米激闘があり、1944年8月11日には組織的戦闘が終了し、其の後の米軍による掃討戦を経て1945年8月15日終戦を迎えました。
- ⑥この間、日本の将兵19,135人と、米将兵1,862人の戦死があり、グアム島民の1,123人の犠牲と、他に身体的被害を受けた島民13,270人の方々が報告されております。

1. 日本軍によるグアム島占領と軍政

1941(S16)年

- 12月 8日 真珠湾攻撃
- 12月10日 日本軍グアムを占領。
グアムに軍政を敷く。

ハワイの真珠湾攻撃による開戦と同時に、日本軍はグアムを爆撃、南海支隊を派遣し、1. ①松山(メリッツ: Merizo)・②馬田(ウマタック: Umatac)、2. ③太郎(タロフォフォ: Talofofu)、3. ④富田(タモン: Tumon)の三方面から上陸、軽微な損害で占領に成功しました。

占領統治(軍政)は、1944年7月米軍の再上陸までの2年半に及びました。

この作戦の目的は、中南部太平洋の戦略態勢を有利にし、南方進攻作戦の左側面を掩護することにあります。

日本の軍政下では、グアムを⑤大宮島と改名し⑥明石(アガナ: Agana)、⑦品川(シナハナ: Sinajana)、⑧稲田(イナラハン: Inarajan)など日本語の地名を付け、占領直後には、キリスト教聖職者をも残地させ、米兵や島民の死者への慰霊碑を建立し、本格的な軍政の実施に着手しました。



▲ 7月21日 上陸する米軍
(Album WAPA 2910: National Park Service)



▲ 7月21日 米軍上陸: 仮設陣地の米軍に対し、夜襲をかける日本軍「戦争スケッチ」小林善一氏戦友作画(長野県)

2. 戦局の推移と絶対国防圏の設定

1942(S17)年

- 3月 7日 大本営: 「今後採るべき戦争指導大綱」
(方針: 戦果を拡充、不敗の態勢を整える)
- 6月 5日 海軍: ミッドウエー海戦の惨敗

1943(S18)年

- 5月29日 日本軍、アッツ島玉砕
- 9月 8日 イタリー無条件降伏
- 9月30日 御前会議: 「絶対国防圏」を決定
(方針をこれまでの攻勢から防勢に変更)

開戦2年、戦況は悪化。昭和18年9月、大本営(*)はマリアナ諸島(サイパン、グアム、テニアン等)を「絶対国防圏」(*)の第一線とすることを決定した。この背景にはマリアナ諸島の欠陥はB-29(**)による本土爆撃を招く恐れがあるとされたからである。このため、従来海軍の守備担当であった中部太平洋方面に、陸軍の第31軍を創設し、第29師団(在満州)をグアムに、第43師団(在本土)をサイパンに派遣しました。既に、途中の海域は米潜水艦の跳梁するところとなっており、一部輸送船は海没して多数の犠牲が出ました。

※大本営(だいほんえい): 戦時に設けられる最高司令部

※絶対国防圏: 「帝国戦争目的達成上絶対確保を要する圏域」の略で千島、小笠原、内南洋及び西部ニューギニア、スラバ、ビルマを含む圏域のこと

※B-29: 超空の要塞と呼ばれた米軍の大型爆撃機。航続距離は9,350km

戦跡マップ



3. 米軍のサイパン上陸とマリアナ沖海戦

1944(S19)年

- 2月19日 大本営: 第29師団動員完結
- 5月下旬 マリアナ地区基地航空、全整備実数1,188機に達する。
- 6月15日 米軍サイパン上陸開始。日本軍第31軍司令官は視察のためパラオに出張中で不在。
- 6月20日 マリアナ「あ号作戦」の完敗。→日本軍はサイパン・グアム・テニアン等の制海、制空権を喪失。
- 7月 7日 日本軍: サイパン島玉砕

大本営では、次に米軍が上陸してくるのはサイパン方面ではなく、パラオ方面(西カロリン諸島)であると判断しており、仮にサイパンに上陸していたとしても「サイパンは難攻不落」と親視的に考えていました。しかし、米軍はサイパン島に上陸してきました。不意を付かれた日本海軍は、ただちに米艦隊を撃滅しようとして「あ号作戦」を発動し、「マリアナ沖海戦」を戦いましたが、アウトレンジ戦法(**)は失敗し、機動部隊が壊滅したため大本営ではサイパン放棄を決定、サイパン守備隊は玉砕してしまいました。

※アウトレンジ戦法: 日本の空母艦載機の航続距離が長いという利点を活かして米空母艦載機の攻撃範囲の外から攻撃しようとする戦法

1) 米軍のグアム攻略方針

米軍は、サイパン攻略に予想外の抵抗を受けたことから、グアムの攻略には第二次大戦でも他に例を見ない二週間に及ぶ大規模かつ長期の砲撃を行いました。

2) グアム島の防備方針と戦力配置

日本軍はグアム島西海岸(⑥明石: アガニア Agana湾、⑨昭和: アガット Agat湾)への米軍上陸を想定。水際(すいさい)撃滅(**)の方針で部隊を沿岸部に配置し、後方への島民の強制移住を行っていました。

日本軍のグアム島守備隊は、第31軍司令部(軍司令官 小畑英良 中将)、第29師団(師団長 高品 彪中将)等、約2万人からなっていました。在留邦人は大半が日本本土に送還されていましたが、米軍上陸時には男子約100名、女子約50名、計約150名が在島していました。

※水際撃滅: 敵の上陸の対する防衛要領のひとつであり、上陸部隊を水際付近で撃滅しようとするものであり、他には内陸部で撃滅する要領もある。当時の日本軍の考え方としては、敵の上陸部隊の大半は日本艦隊によって撃破されるため上陸してくる米軍は容易に水際で撃滅できるとされた。



4. 米軍のグアム上陸作戦と日本軍の反撃

1944(S19)年
7月21日 米軍グアム島上陸開始

- 1) 米軍は⑩浅間(アサン: Asan) 岬と、⑨昭和(アガット: Agat) 海岸への二方面で、上陸作戦を実施。7月21日午前4時30分、艦砲の猛爆が開始され、午前6時には艦砲の支援を受けた上陸用舟艇による米軍の上陸が開始されました。上陸軍を支援する空爆と、正確な艦砲射撃が激烈を極めました。
- 2) 日本軍は艦砲と空爆による猛爆にも怯むことなく、上陸しようとする米軍を迎え撃ったが、夕刻までに米軍は、アサン、アガット両方面で橋頭堡設定に成功しました。
- 3) 21日夜、第29師団の一部を以って、アサン、アガットに両方面に夜間逆襲を行いました。成功しませんでした。米軍の上陸作戦の主な目的①日本本土を爆撃するためのB-29基地の建設 ②フィリピン、台湾等を攻略するための中継基地の設定

5. 日本軍による総反撃

1944(S19)年
7月22-23日 米軍上陸と日本軍による反撃
7月24-25日 米軍グアム陸上戦の推進、日本軍の総反撃

- 1) 米軍は22日も上陸を続け、⑪本田台(ホンテ: Honte)に艦砲と爆撃が集中しました。日本軍がマンガン山と呼んだ小山は、⑫茶屋(チャチャオ: Chaochao) 山と、⑬釣野(マガジナ: Macajina) 山との中間に位置する小高い丘とのことで、グアム島戦での最も重要な戦いが戦われた場所です。(マンガン山は現地では名もない丘です。)
- 2) 7月25日夜、日本軍は、⑪本田台(ホンテ)、マンガン山方面と、⑨昭和町(アガット)、⑭有羽(アリファン) 山方面での総反撃を実施。この日本軍の総反撃は失敗しました。7月26日以降、米軍は、敗退する日本軍への攻撃を緩めることなく、⑮表(オロテ) 半島の⑯須磨(スメイ)の飛行場をはじめ、主要な日本軍施設を攻撃、占領地区を拡大していました。

6. 日本軍の玉砕とその後

- 1) 7月27日夜、小畑軍司令官は、大本営の指導にもとづき、事後は持久戦に移ることを命令、日本軍は島北部の⑰春田山(バリガタ)、⑱平塚(フィネガン)へ移動を開始しました。7月28日には、高品師団長の壮烈な戦死があり、⑪本田台(ホンテ)は陥落しました。残存部隊は負傷者でも必ず重傷者を肩に担っていた。「死んではならん、まだまだ生きて戦うのだ」と激励する言葉が絶えなかった。8月に入り米軍は戦車と歩兵を使った攻撃を強化し、追い詰められた日本軍は、⑳又木山(マタグアック)における最終布陣をなし、軍司令官は8月10日、大本営に対し最終電を打電しました。
- 2) グアム島守備隊の玉砕
1944(S19)年
8月11日 小畑軍司令官の自決(ジーゴの洞窟)



▲⑪Honte (本田台) 現在の激戦地跡 (2008年7月)



▲竹内隊本田台攻撃順路(作戦時)前村孝房氏(戦友)作画(山梨県)

- 8月11日、⑰高原山(サンタロサ)、⑳又木山(マタグアック)の陥落、小畑軍司令官の戦死(自決)により、日本軍の組織的戦闘は終結しました。
- 3) 米軍のグアム占領
8月13日 米軍はラジオ放送で、⑳又木山(マタグアック)と高原(サンタ・ロサ)の中間点で炎上する米軍戦車「グアムの戦い」(1981年刊 月刊沖編社 p146)その後 B-29 発進基地が建設され、本土空襲に使用されました。
 - 4) 玉砕後の戦闘
軍司令官の自決以降も、玉砕戦法を取らず、残存部隊によるゲリラ戦と逃避行が終戦まで続行されました。
 - 5) 終戦以降は、米軍と捕虜となった日本人将兵が、ジャングル生活を送る将兵に投降を呼びかけ、多くは収容されたが、その後もジャングル生活を続け、戦後の伊藤正・皆川文蔵両氏や、横井庄一氏等の発見がありました。



7. グアム島戦の意義

グアム島作戦は、日本軍にとっては、努めて多くの米軍戦力を引きつけ、努めて長く保持し、日本軍主力に本土決戦準備のための時間的余裕を与えようとするものであった。グアム島守備隊将兵は、この期待に依って、圧倒的に優勢な米軍に対し、孤立無援の状態で 22 日間勇戦敢闘し、その後終戦まで持久戦を継続した。日本軍守備隊は2万対5万といわれる戦いを最後まで戦い、武運つたなく玉砕したが、わたしたちはこの戦いの意義をどのように考えれば良いのでしょうか。